

すこやか11月号

第 200 号
月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA



特集
FEATURE

最新鋭循環器系血管造影装置を導入



循環器内科部長・
心臓センター長

吉川 糧平

- 日本心血管インターベンション治療学会専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会指導医
- 日本心血管インターベンション治療学会代議員
- 日本慢性完全閉塞インターベンション専門家会議認定術者

当院ではこの度、最新の循環器系X線血管造影装置 Azurion7 C12 を導入(更新)しました(写真)。西日本では初の導入となるこの装置は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患の血管造影や血管内治療を、安全かつ迅速に行うための様々な最新の機能を搭載しており、当院心臓センターの柱となる最新鋭装置です。

本装置の特徴

①適正な治療を支援する最新システム

次世代の画像処理テクノロジーを装備し、画質と画像操作性が向上し、疾患部を正確に診断できるため、適正な治療を計画することが可能となります。

治療時には、血管の狭くなった部分に、バルーンと呼ばれる風船が装着されたカテーテルを挿入して押し広げ、ステントと呼ばれる金属製の治療器具を留置し、その広がった状態を保持します。本装置では、バルーンやステントの位置を正確に把握できる世界初のナビゲーション技術や、リアルタイムにステントの

状態を診断する機能などが搭載され、安全かつ効果的に患者さんへの負担の少ない治療を行うことができます。

②X線被ばく低減

最高品質のX線管により、低線量での高品質画像が実現。また、X線を出さずにポジショニングが可能になり、X線被ばく量が低減されます。

③検査・治療時間の大幅な短縮

操作する医師や技師の手元から直接、全ての作業と情報の操作、アクセスが可能になり、従来交互に行っていた検査室での患部透視・撮影と操作室での画像操作・解析を並行して実施できるため、検査・治療にかかる時間が大幅に短縮されます。

より一層安全で安心な検査・治療の提供

この度の最新装置導入により、狭心症・心筋梗塞で治療が必要とされる患者さんに優れた高度医療を提供し、より一層安全で安心な検査・治療を受けていただけることを確信しています。



写真 最新鋭の循環器系血管造影装置
(当院血管造影室)

形成外科 専門外来について

形成外科 医長 梶月 玲子

■日本形成外科学会専門医

■日本創傷外科学会専門医

■日本レーザー医学会
レーザー専門医

■乳房再建用エキスパンダー/
インプラント責任医師

■日本形成外科学会
皮膚腫瘍外科分野指導医

平成29年4月から形成外科では「まぶた外来」を新設し、これまでのレーザー外来、創傷ケア外来と合わせ、現在3つの専門外来を設け診療を行っています。

レーザー外来

色素レーザーとQスイッチ付アレキサンドライトレーザー、炭酸ガスレーザーを導入し、イチゴ状血管腫、単純性血管腫、毛細血管拡張症、太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青、脂漏性角化症などの身体表面の疾患を治療しています。小児や広範囲の症例では、入院の上、全身麻酔下のレーザー照射も行っています。

創傷ケア外来

褥瘡(床ずれ)や下腿潰瘍(膝から足首にかけての難治性の潰瘍)などを主に診療しています。体の不自由な方や車いすの患者さんが多いため、余裕を持った予約時間を設定しています。

まぶた外来

まぶたが重たく開けにくい(眼瞼下垂症)、逆まつ毛(眼瞼内反症、睫毛内反症)、まぶたのできもの(眼瞼腫瘍)、まぶたのけいれん(眼瞼痙攣)などに対する治療を行っています。これらの中でも、特に眼瞼下垂症はテレビや新聞などでも報道され話題となり、治療件数も増加しています。

眼瞼下垂症は、加齢やコンタクトレンズの長期装用などにより、まぶたを上げる作用を持つ「眼瞼挙筋腱膜」がまぶたの中にある「瞼板」という組織からはずれたりのびたりしていることにより起こります。これによりさまざまな症状が出現し、生活に支障をきたします(図参照)。治療は外科手術が基本です。

局所麻酔のあと、まぶたを切開し、ゆるんだ挙筋腱膜を瞼板に縫い付けます。加齢でまぶたの皮膚がたるんでいる場合は、余った皮膚の切除を行います。当院では術後の合併症を軽くするために術後数日入院としています。

この手術を受けることで視野が広がるだけでなく、肩こりや頭痛が軽減することもあります。気になる方は一度ご相談ください。

なお、これらの専門外来はすべて完全予約制です。近隣医療機関から紹介予約を取っていただくか、通常通り形成外科外来を受診したあとに予約することになりますので、あらかじめご了承ください。

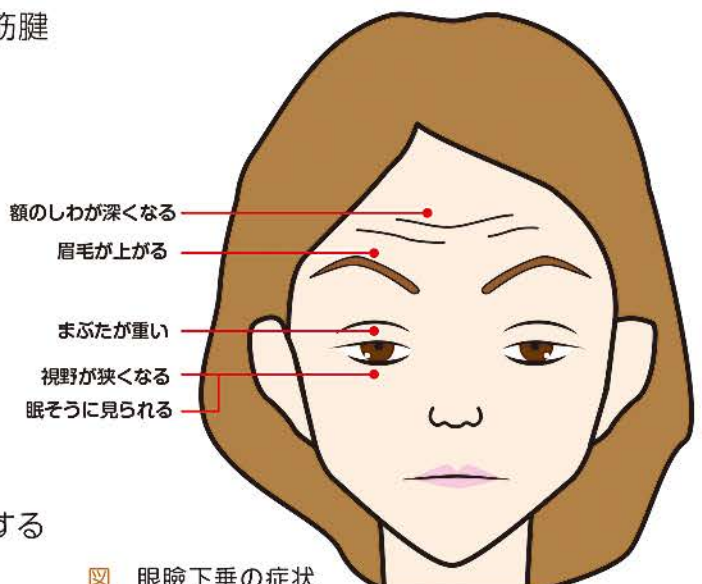


図 眼瞼下垂の症状

病棟紹介 5階東病棟

5階東病棟 課長 大澤 真紀

病棟の概要

5階東病棟は、整形外科・形成外科・眼科・耳鼻いんこう科の外科系の混合病棟です。

整形外科では、関節センターとしてリュウマチ外来・肩関節外来・スポーツ外来・人工関節外来の専門外来があります。関節鏡を用いて小さな切開でほとんど筋肉を切らずに行う手術も増え、患者さんの負担を少なくしています。手術後には、リハビリテーション科と協力し、他職種でチームを組んで、必要なリハビリを行っています。形成外科は、身体表面の欠損や変形など容姿面も考慮し治療を行っています。手術を中心に治療を行いますが、レーザー照射などでの治療も実施しています。褥瘡(床ずれ)の治療も行っており、特に陰圧閉鎖療法^{*}は積極的に行っています。眼科は主に白内障の手術を行っています。耳鼻いんこう科は、耳、鼻などの疾患の手術をした患者さんが入院しています。

施設とスタッフ

病棟には、手術後の重症管理を行える病床が3床あり、手術直後の患者さんの全身管理ができるように整えています。

現在、病棟スタッフは、看護師29名(パート含む)、ケアアシスタント3名、ケアサポーター1名です。看護師は3交替勤務で、患者さんの看護を行っています。

病棟の特徴と方針

5階東では、運動機能系の障害を持ち、主に手術を対象とした患者さんが多く、手術を受ける患者さんの看護から、手術後の社会復帰を目指した看護まで幅の広いスキルが求められます。患者さんが安心でき、信頼できる看護を提供できるよう、スタッフで協力しながら、知識、技術の向上に努めています。

※陰圧閉鎖療法…患部を被覆材で密閉したうえで、吸引ポンプを用い減圧して、周りより低い気圧に保つことで治療を促進する医療技術



スタッフステーションでの業務



スタッフ集合写真



地域連携室との合同カンファレンス

麻酔科 医長 笠置 益弘

ペインクリニック外来担当 医師 神原 政仁

ペインクリニックとは

ペインクリニックとは、聞き慣れない言葉かもしれませんが、「痛みを治療する診療科」という意味です。

病院を訪れる患者さんの60%以上は、何らかの痛みを持っていると言われています。痛みは原因となる疾患(原疾患)があることを知らせる警告の意味があり、当然原疾患を治療すれば、良くなるのがほとんどです。しかし、「原疾患を治療しても取れなかった痛み」、「必ずしも原疾患の治療をしなくてもよい痛み」、「原疾患の治療が難しい痛み」というものが存在します。そのような「痛み」を専門的な知識と技術をもとに、治療するところがペインクリニックです。

対象となる疾患・症状

次のような疾患・症状がペインクリニックの対象となります。

- ◇体全体を対象として、帯状疱疹(ヘルペス)や外傷、がんによる痛み
- ◇頭部では、頭痛、三叉神経痛(顔の一部におきる突発性の痛み)、さまざまな顔面の痛みに加え、顔面神経麻痺(顔の片側の麻痺)、突発性難聴などの痛みのない疾患
- ◇頸部から上肢では、各種の頸椎疾患や外傷性頸部症候群(むちうち)、肩こり、頸肩腕症候群(首筋・肩・腕などの痛みやしびれ)、肩関節周囲炎(五十肩)など
- ◇胸背部および腰・足では、胸背部痛や腰痛、脊椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱狭窄症、坐骨神経痛(お尻からふくらはぎにかけての痛み)など
- ◇末梢血行障害による手足の痛み

治療法

ペインクリニックでは、鎮痛薬や鎮痛補助薬による薬物療法と神経ブロックという注射による治療を行っています。

神経ブロックは、神経の状態や血流を良くする治療で、神経障害性痛(神経痛)などに効果があります。



外来診察室での神原医師

ペインクリニック外来(専門外来)

木曜 9:00~16:00

担当：神原医師

午後は予約制ですが、午前中の初診受付時間帯は予約不要です。痛みにお悩みの方はお気軽にご相談ください。

医師からのメッセージ

日々の診療に励む医師から、「すこやか」読者の皆さんへのメッセージをお届けします。



かんだ まさとし
神田 雅俊

- 診療科 産婦人科
- 専門分野 産婦人科一般
- 資格 日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医

message

当院に着任し、15年が経ちました。当初に比べ産婦人科医師および助産師も増え、スタッフが充実しました。総合病院のメリットを活かし、小児科や麻酔科等と連携し、安全なお産に日々努力しています。また、手術等の婦人科全般にも対応しています。



きざき ともひこ
木崎 智彦

- 診療科 病理診断科
- 専門分野 病理診断一般
- 資格 日本病理学会病理専門医
日本病理学会研修指導医

message

主に顕微鏡内の世界で病理診断をしています。経験豊富であるが、未経験の症例に遭遇する機会も多く、専門書や論文を読みながら試行錯誤して解決した時は、一歩前進です。がんばります。

News スマートフォンから見るホームページ画面が、見やすくなりました

スマートフォンから見る市民病院ホームページ画面が、見やすくなりました。

- ①既存のホームページの情報はそのままに、より一層スマートフォン操作に適した画面表示に更新されました。
- ②スマートフォン機能を利用した、周辺地図表示や代表電話への通話ショートカットアイコンもございますので、是非ご活用ください。

講座開催・外来休診などの「お知らせ」も随時掲載していますので、是非ご覧ください。三田市民病院のホームページは、検索サイトより「三田市民病院」で検索してください。



近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。かかりつけ医を持ちましょう!



田場医院 田場 隆介 院長

当院は、赤ちゃんからご高齢の方まで、生活の質をより高めることができるよう、地域の問題解決を心がけて医療を行っております。小児科・形成外科を核に、こどもたちの発達をサポートする児童発達支援事業「ぞうさんの足音」や、働く育児世代をサポートする三田市病児・病後児保育事業「さんだワラビーズ」も展開しています。

形成外科では、お子様の急なけがや やけどの診療や、受診が困難な方の褥瘡(床ずれ)など、在宅医療に関連した皮膚疾患の往診も行っています。

現在は、医院の建て替えに伴い、えるむプラザ2階で診療を行っています。

何かございましたら、お気軽にご相談ください。



形成外科診療科目: できもの(粉瘤などの皮下腫瘍やほくろ、あざなどの皮膚腫瘍)、腫れ物、けがや やけど、治りにくいきず、褥瘡、きずあと、たこや魚の目・巻き爪など足のケア 等

〒669-1322 三田市すずかけ台2-3-1 えるむプラザ2F

電話 079-565-2525

HP <http://www.taba-shonika.jp/>

(「三田市 田場医院」で検索してください)

診察科目 小児科、形成外科、在宅医療

休 診 日 日曜・祝日、水・土曜日の午後、

(形成外科のみ木曜日の午後休診)

診療時間 午前 9:00~12:00 午後 5:00~6:00

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後 | ○ | ○ | × | △ | ○ | × |

△印は形成外科は休診日となっております。



新任医師紹介

Introduction of new physician

当院では9・10月より新しく医師を迎えました。より一層日々の診療に力を入れてまいります。



皮膚科

医師 ^{たけうち} 竹内 ^{ちひろ} 千尋

出身地 兵庫県

趣味 旅行

9月から皮膚科に赴任しました竹内と申します。皮膚科医として、皆様によりよい医療を提供できるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



整形外科

医師 ^{くすのせ} 楠瀬 ^{まさや} 正哉

出身地 高知県

趣味 旅行、体を動かすこと

10月より整形外科に赴任しました楠瀬と申します。地域の皆様のお役に立てるよう、一生懸命頑張りますので、ぜひご相談ください。

編集後記

朝晩の寒さが厳しくなってきました。それに伴って、食卓に鍋が並ぶことが多くなってきました。よせ鍋、キムチ鍋、豆乳鍋など、ひと口に鍋と言っても意外にバリエーションが豊富です。温かい食事でご体管理し、手洗い、うがいで感染症を防ぎましょう!

すこやか(第200号)
平成29年11月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会



三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000 (代表)
<http://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>